



vol.81

2021年
5月21日
発行

日本山岳会

「高尾の森」



通信

—小下沢風景林の森づくり活動—

会員数：168名
(2021.4月末現在)

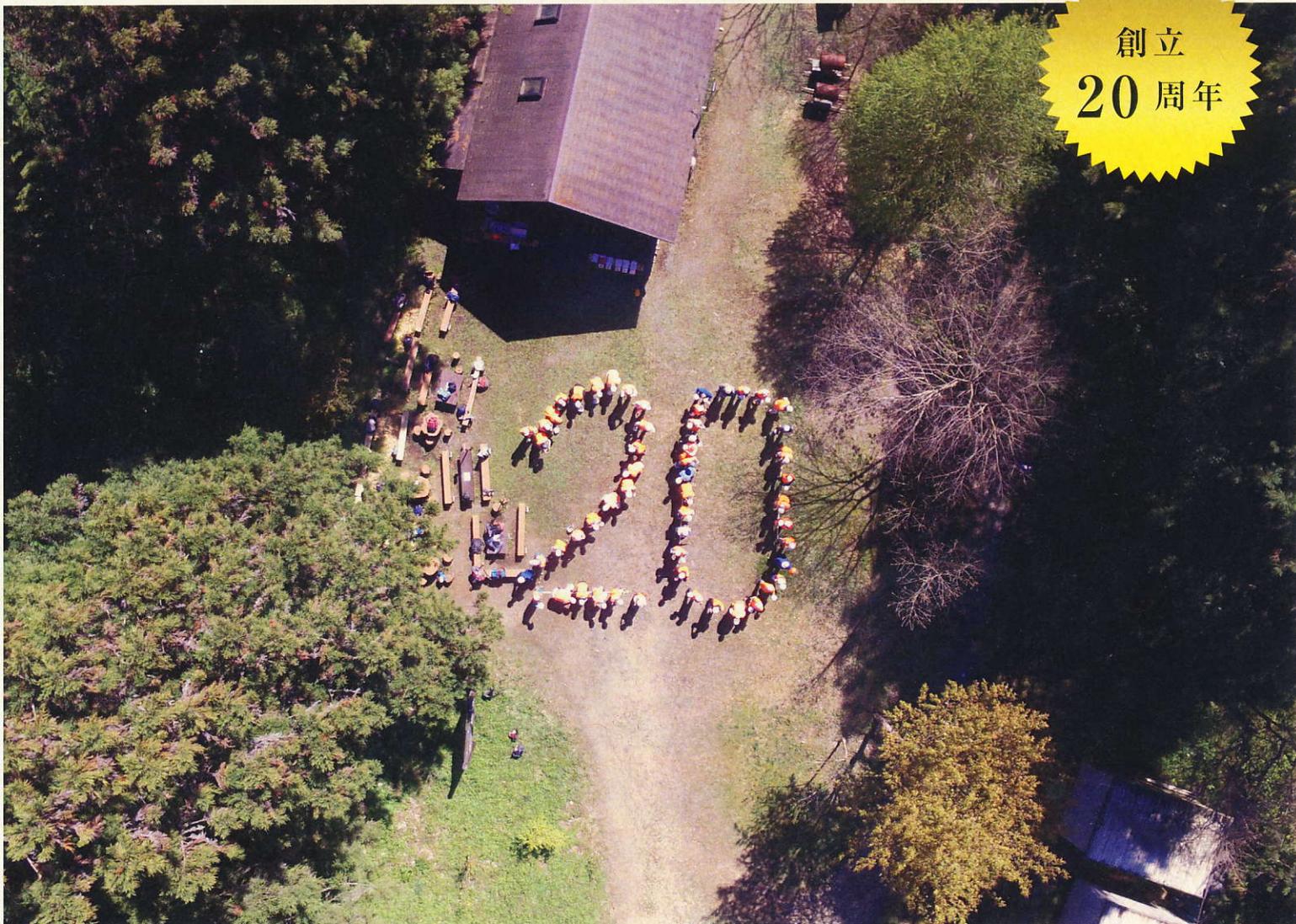
会員より

「20周年記念を地上で描き、ドローンで撮った写真を会報誌の表紙にいかが？」

4月10日定例作業日に実現した次第！

次回も提案お待ちしております。

創立
20周年



一位



イチイの樹

イチイ科イチイ属の植物。またはイチイ属の植物の総称。

常緑針葉樹。別名はアララギ。

長野県松本地方ではミネゾと呼ばれ、

北海道や北東北の方言ではオンコと呼ばれ、

アイヌからはクネニと呼ばれた。

(横川信由)

<http://JACtakao.net>

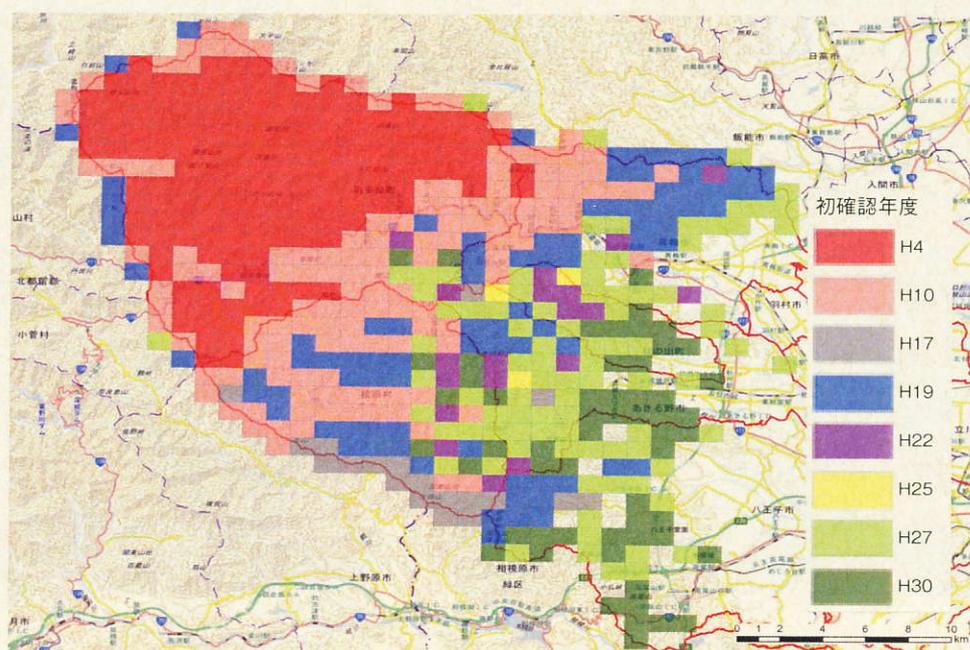
東京都のシカ管理計画の取組について

東京都環境局自然環境部計画課
森林再生担当

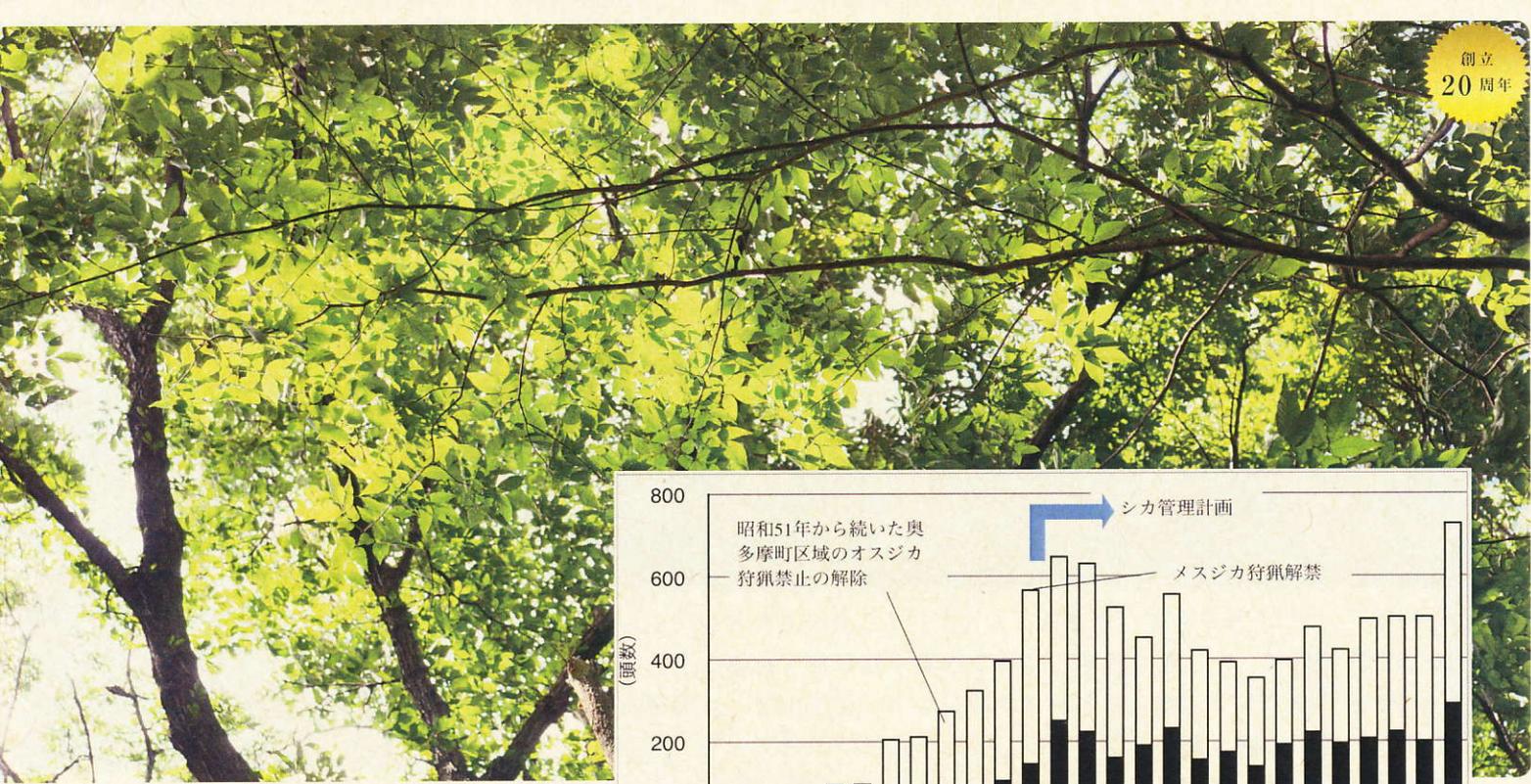
近年、全国的にニホンジカ（以下「シカ」という。）の急速な個体数増加や生息地の拡大が生じており、農林水産業や生活環境への被害、生態系への影響等が深刻な状況になっています。

東京都においても、シカは平成の初め頃には奥多摩町の高標高エリアを中心に分布していたと考えられていますが、その後、着実に東や南の低標高域に分布を拡げてきました。

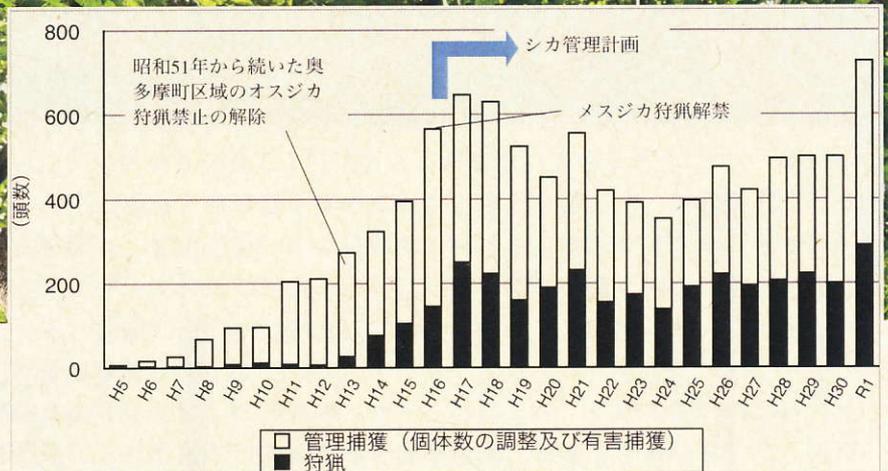
聞き取りによる
目撃例から推定した
シカ分布



平成 16 年、シカの密度が高い奥多摩町の造林地において表土のほとんどが流出する大規模な土砂崩れが発生し、水道施設等にも深刻な影響が生じました。このため都は市町村等と連携して平成 17 年に鳥獣保護管理法（当時は鳥獣保護法）に基づくシカ管理計画（当時はシカ保護管理計画）を策定し、以降、シカのモニタリングを行いながら、個体数管理や被害対策等を実施してきました。

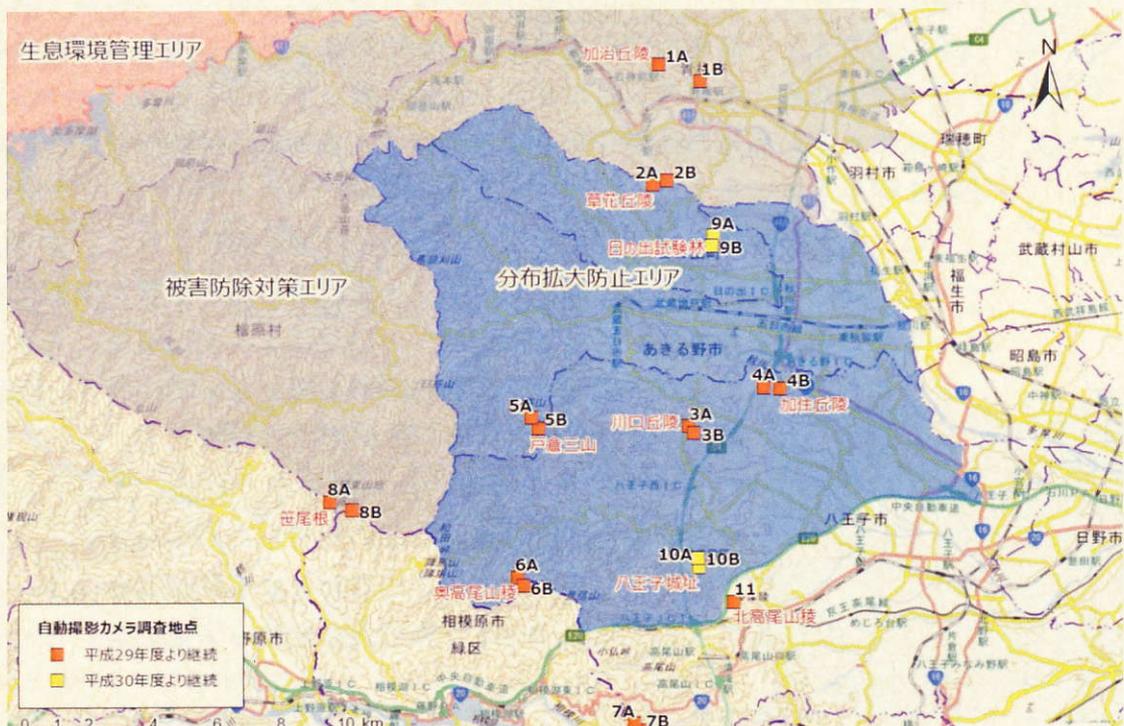


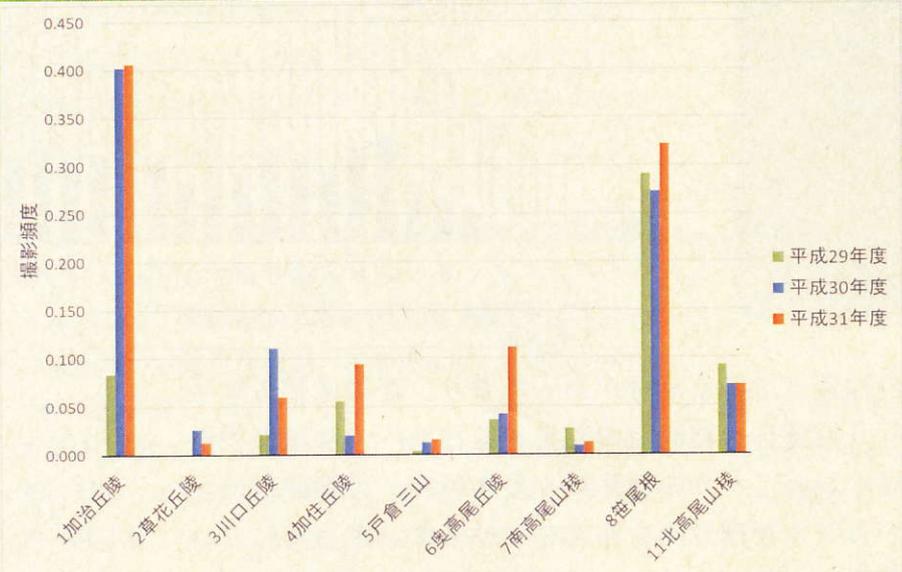
多摩地域におけるシカ捕獲頭数の推移



都においてシカの捕獲は主に市町村が担っており、都は産業労働局において市町村が行う捕獲への補助金の支出や植林地への防護柵設置などを行い、環境局においてシカの個体数や分布範囲、行動等のモニタリングを行いながらシカ管理計画を作成しています。水道局においても水道水源林の管理の一環としてシカ対策を実施しています。

これまでに、奥多摩町の一部の地域などではシカの生息密度が減少したと考えられるものの、残念ながら全体としてはあまり大きな変化はなく、現在も3000頭前後が生息していると考えられています。分布域は南や東に拡大し、今では北は加治丘陵の東端から南は高尾山麓に





丘陵地付近における
自動撮影カメラ調査地点と
シカ撮影頻度の変化
(各2台。平成29年度からの調査地点のみ)

まで生息するようになっていきます。シカは繁殖力が高く、捕獲の手を緩めると急速に増加する可能性があり、捕獲の強化が課題です。

高尾山周辺のシカ密度は、現時点ではさほど高くはありませんが、貴会のモニタリングデータにも現れているとおり、一帯のシカは近年増えつつあります。高尾山周辺は植生が豊かであり、狩猟もほとんど行われていないため、シカの定着に良好な条件が整っていると言えます。希少な植物も多い高尾の植生を保全するため、八王子市や林野庁などとの協議を開始しています。

ほとんどの植物を食べ尽くすシカの高密度状態が継続すれば、森林の更新が妨げられ、長期的には自然植生（＝生態系）への影響が深刻化するものと考えられます。近年は市街地への出没による交通事故、人身被害なども増加しており、新たなリスク管理が必要となっています。令和3年度は現シカ管理計画（第5期）の最終年度に当たります。現在、これまでのモニタリングデータを今後の効果的なシカ捕獲に活用するため、地域的なシカの分布や密度の違いなどの解析を進めています。上記のような状況に対応するため、市町村をはじめとする関係者と協議しながら、令和3年度末までに次期シカ管理計画を定める予定です。

*参考
https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/basic/plan/nature/deer_protection.html

2021年から始まる 5か年計画について

副代表 松隈茂

1 小下沢国有林について ……………(ふれあいの森 現在の協定区域)

21年度は、新しい5か年計画が始まる年度になります。新しい計画では、小下沢国有林の間伐・間伐を実施する際に支障となる対象地のつる切り、及び、従来当会で植栽してきた個所の下刈り、つる切りを行うこととしています。歩道修理、被害木処理は当然必要です。

間伐対象地としては、手のこ班は、218及び221林班(中心は218林班)、機械班では218及び219林班内を対象に間伐、つる切りを実施していくこととなります。なお、機械班の個所に急傾斜の部分があり、作業用の歩道を作る必要がある場合は、手のこ班と共同で作設することを考えたい。また、221林班については、チェーンソー研修、慈恵学園の学生研修等の活動に活用することを念頭に、手のこ班が実施するようにしましょう。

2 板当国有林について ……………(従来の体験林業による実施区域)

前計画期間は、間伐を実施していました。21年度からは、伐採跡地をコナラ植栽していてサル等の被害により、植栽木が失われ雑草の繁茂するところに地拵えをして広葉樹を植付けて、小下沢国有林のような広葉樹林に造成していきたい。残っている木、周りから侵入してきた木等は存置し、多様性を持ったもとの天然林になるような森林を目指したいと思います。

明治神宮の森は、原野に全国から献木を募って植えられて出来た森林です。現在、雑草に覆われた板当国有林のこれらの区域は、スギ、ヒノキの人工林でした。もとの天然林から見ると広葉樹のかんりの樹種が失われています。そのようなことも踏まえて復元していきたいと思います。

わが会は、吉川代表が話しているように、植栽がないと活力が沸き上がらないように感じています。造林を再開したい。今まで20年をかけて、ザリクボ沢を中心とした小下沢国有林に広葉樹を植え、育てて針広混交林が出来てきています。これからの20年は、活動中心をベース小屋からみて尾根向こうの板当国有林に移し、広葉樹林を植え、育てていく新たなステージになると思います。現在、これらの区域をふれあいの森にして頂くようお願いをしているところです。

参考

第5次5か年計画
2021~2025
概要(案)

ふれあいの森(現協定区域)

- 1 間伐(つる切りを含む)
218ろ、と、は林小班。
219は、ろ林小班。
221い、ろ林小班
- 2 保育(下刈、つる切り)
219、220、221林班(当会植栽地)

板当地区(現協定区域外、次期協定区域に要望)

- 1 201は、に、ほ、へ林小班 間伐。
つる覆い地でスギ、ヒノキの植栽木が失われている箇所について地拵え植付
- 2 202い4林小班
台風被害跡地について被害木処理、地拵え植付
- 3 202い5、い6、い8、い9、ぬ林小班
地ごしらえ植付。被害木処理

2月3月活動日記



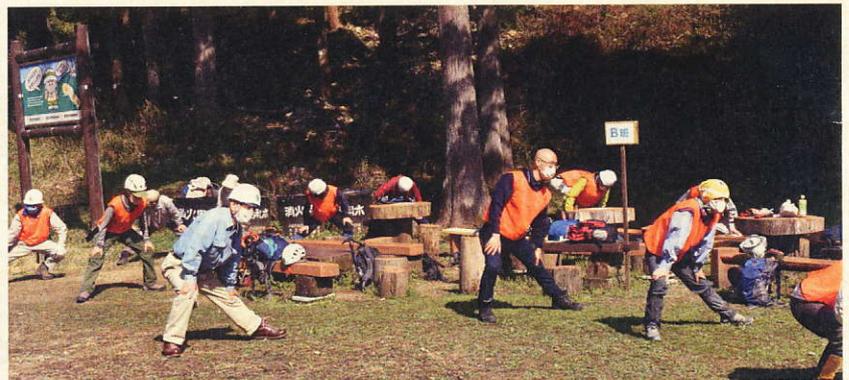
上柚木公園整備（2月）



綺麗になった上柚木公園

2月の定例作業は緊急事態宣言発令中のため中止とした。3月は緊急事態宣言解除されたが、いまだ首都圏ではコロナ感染症は蔓延しているなか下記のガイドライン（抜粋）を徹底し活動に取り組んだ。

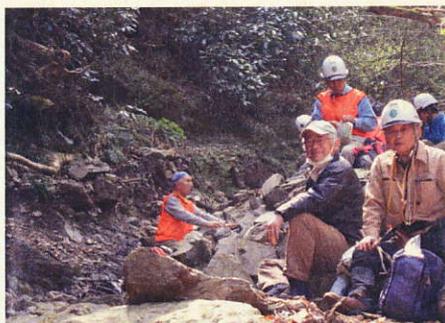
- バス乗車の分散化
- 基礎疾患のある方及び本人または家族に高熱や不調のある方には、参加を辞退してください。
- 高齢者及び遠方からの参加者については、自己判断で参加を自粛してください。
ただし、お元気な方は感染防止策を徹底したうえで参加してください。
- 従来の感染防止策に加えて、往復交通機関内の会話の抑制、集合時のマスク着用をお願いします。
- 作業終了後は、流れ解散とし、高尾駅周辺での飲み会は禁止です。我慢していただくをお願いします。
- 作業にあたって
安全最優先：再開後の作業のため、無理をしない。林道には車が入れません。



気合の入った準備体操



3月作業開始前（B・D班）



楽しい昼食



機械班

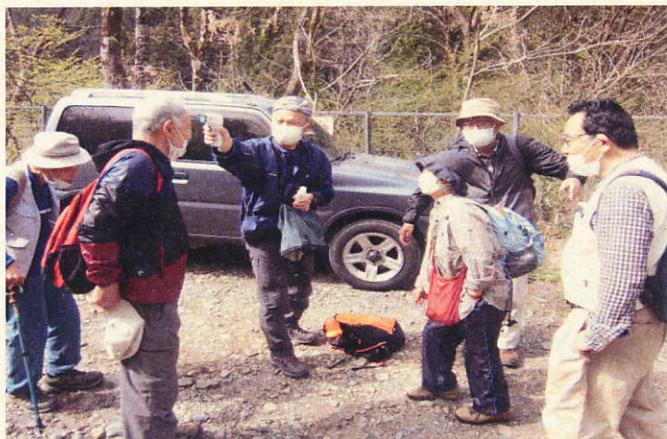


ザリクボ登山道修復

4月活動日記



20周年記念を祝い



体温測定中



4月C班



都有林シイタケ駒うち風景

今月も新型コロナウイルス感染が心配される中、先月同様ガイドラインを設け実施した。



高槻先生を囲んで



4月D班



もくじ

東京都のシカ管理計画の取組	02
次期五か年計画	05
2月3月活動日記	06
4月活動日記	07
私と高尾の森づくりの会	08
動物カメラ報告	10
幹事会報告	11
高尾の森も桑都日本遺産に	11
原稿募集・訃報連絡	11
事務局からのお知らせ	12

私と高尾の森づくりの会

2001年～2002年に入会された方々にご寄稿いただきました。

創立20周年記念寄稿1

会
田
博

樹木が好きで



この会も20年。すると私は19年になる。落葉樹が好きで滝ノ沢で遊んでいる時会のことを知り2002年に入会した。それ以来定例作業は休んだ事が無い。但しこの中で感激したことが無いのが悔しい。森づくり関係の他に色々な経験ができたが中でも小屋作りが最高の思い出となる。土台木組、屋根は業者の仕事でその他内装、外装を我々何人かで仕上げた。最も谷亀、故須川さんがメインで我々はその手伝いだが我ながらよく頑張ったと思う。なおこの仲間の河西会長、須川、船木、神蔵、4名は故人です。合掌。

この経験はわが家の畳部屋を囲炉裏のあるフローリングに私一人で改造するのに役立った。

なおずっと気になっている事は伐採した木が使われないことで利用したいと思い彫刻クラブに入り勉強し、国から購入した伐採木を使って何体かの仏像を作り小屋に置いてある。また、03年の植樹祭の後、空き地を見つけて家で実生させた豆柿を植えたが、毎年実をつけてサルなどの食べ物として利用されている。高尾の動物の役に立っていると思うと本当に嬉しい。次に小屋前のムクの樹とカツラの樹について。ムクは小屋の完成と同時に船木さんが自宅の実生を植えたもので、カツラは私が自宅で実生させたものを2007年に植えました。今では10m近くに育っている。

この会に入っていなければこれほど色々な経験ができなかったろう。また私は糖尿病で30年になるが、合併症も出ず今も作業が出来るのは森づくりで体を動かしているからだと思う。そのような訳で、これからも動ける間は休まず定例作業に参加したくジムに通い身体を動かして足手まといにならないよう頑張りますのでよろしくをお願いします。

創立20周年記念寄稿2

千
谷
恵
子

高尾の森づくりの
活動への想い

2001年春、退職しこれから何を生き甲斐にしようかと思案していたある朝、「高尾の森づくりの会 植樹祭」の新聞記事に目が留まった。雪の積もった森で10名くらいの準備委員が笑顔で写っている写真を見た瞬間、これだ！とひらめいてしまった。それから、雨の日も雪の日も二丁差しを腰に山に通ってきた。ごく最近、山用品の中にアイゼンを見つけ、あの頃はよく雪の中を植樹祭準備に行っていたなと懐かしく思った。20年、気が付けば、汗を流してともに作業した仲間は、一人二人と退会、鬼籍に入られた方も。植栽地はすっかり森になり、カツラは春には♥の葉をつけ、秋には香ばしい香りを放ち、ヤマザクラも咲き、ハイカー達を和ませる山が育ってきた。

植物について全く無知であった私は生態調査班の活動に参加し先輩たちにいろいろ教えていただき、植栽木の生育調査・計測・記録などを体験する中で、森林の事が少しずつ分かるようになった。2001～2003年度植栽地では、カツラ、ヤマザクラなどは成長が著しく、そろそろ間伐をする時期を迎えており、間伐することにより残存木の成長を促し、侵入木による植物多様性を生み出すことができるのではないかと、また、間伐した木の活用も考える必要があるだろうと、当面の研究課題としている。植樹しないで放置した山の森林形成、広葉樹の埋土種子の調査、貴重な山野草の調査・保護なども心がけていきたいと考えている。



創立20周年記念寄稿 3

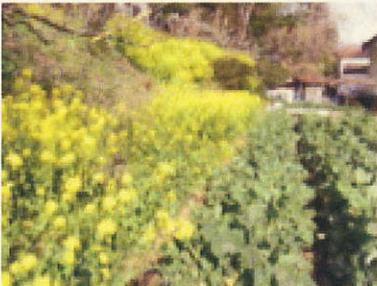
中野紀邦

難点は落石(大ケヤキ付近)

2001年5月、日本山岳会が植樹を始め一般の参加を呼び掛けていたので参加。加藤春男班に配属、ザリクボの大ヤキのガレ場が植栽地だ。初作業はケヤキの根っこの蜂の巣を泥で塞ぐことだ。次に灌木を巻き落とし、枯葉や敷き土を被せたが、安定しないので「紙ネッコン」と言う段ボールの箱に土と苗木を入れて植樹した。しかし猪にひっくり返され、最初の方針で植え替えた。ここにミズキが育っていたが全面刈の方針で切り倒した。峯尾春雄師匠が怒った、十年ほどしてその意味が分かった。ここは雪崩が起こる所、第一回の植栽地は完全に破壊された。一人で何度か修復した。

小生は山男でない、西村智磨子、千谷恵子ご兩人に「腰で歩け」、「指で土を引っ掻け」と歩き方の指導を受けた。次の年はザリクボの右岸、ロープを縦横、斜めに張って作業したが、落石がひどく撤退。そして四年ほどは大ケヤキの南斜面に入った。日当たりが良く1月にスマレが咲き、ムササビもいた。蛇が多く岡田陽子さんが嬉々と抜け殻を集めていた。難点は落石だ、斜面を三段に分けてネットを貼り、登山道沿いには見張りも付けた。当時ザリクボの上で猿が20頭ばかり、カーブの所に見張りが二、三頭いて、子猿を抱いた猿が必死に逃げていった。壮観だった。滝の上にはイノシのトイレがあった。この頃木下沢の尾根で熊の写真も撮られている。

皆川恵男さん笹原洋さんと、皆川モットー「下見三回」に従い連日山に入った。三人組は里山にも進出、ドラム缶で窯を作り炭焼、シイタケ栽培もした。皆川さんがチェーンソー隊を立ち上げた頃から植栽地のひっ迫、地震や噴火で、会員は気仙沼、栗島、三宅島などで活躍。一昨年暮れ大雨の後、峯尾師匠と会った「こんな雨は生まれて初めてだ」と、そして「雑木林、作ったよ」と遠目だがバランスいい雑木林を指し秘訣を教えてもらったが、秘訣だから小生の胸に温めておく。



創立20周年記念寄稿 4

西川瑛一郎

“ありがとう
高尾の森”

私が高尾の森づくりの会の仲間に入れてもらったのは2002年の3月で、その経緯については、高尾の森通信10号に載せていただいた、「高尾の森づくりと地球温暖化防止効果について」の序文で書いているように、高校同期の友達であった河西ご夫妻の誘いと、河西さんから送られてきたアップロードされたばかりの会のホームページの序文に書かれていた、「今まで山に世話になってきたものとして、山に恩返しをしたいとの思いから会を創めた」との言葉に共感したからであった。

ただ、ワンゲル等山の会に所属したことの無い私にとっては、“日本山岳会”でやっている活動は些か敷居が高く、「資金援助だけさせてもらおう」と、当初賛助会員として入会を申し込んだ。すると河西さんから、「気楽な会だからともかく一度出てきてくれ。」とのメールが入り、第二回植樹祭を一週間後に控えた土曜日に、“ジープに地下足袋”と言う格好で参加させてもらった。

最初の作業は、植樹位置を示すために立てる篠竹を背負って大ケヤキの辺りまで運び上げることであった(写真)。その後、作業道整備を手伝い、ひと汗かいた後、植栽予定地の一角に腰を下ろし昼食を取ったが、見回せば深山の趣があり、こんな近い場所にこんな素晴らしいところがあるのかと、すっかり気に入ってしまった。

性に合っていたのであろうか、それ以来都合のつく限り作業に出席するようになり、以来二十年近く活動を続ける中で、“返した恩”よりも“受けた恩”の方がずっと大きいと気づく今日この頃である。有り難う“高尾の森”!!!そして、この会に誘ってくれた河西ご夫妻、ほんとに有り難う!!!





高尾の森の動物たち

ツキノワグマ

哺乳類調査班 山崎 勇

高尾の森には36種の哺乳類が生息していると言われております(八王子市市誌)。この中にクマが含まれており前からこの地域にクマが生息していたことが分かります。動物カメラを高尾の森に設置(2010年)し映像による観察を始めて10年が経過しました。今回は、ツキノワグマ(クマ)について報告します。

初めてクマの映像が撮れてのは、2016年7月こげ沢国有林221林班巨木の森でした。

小さな個体で2歳程度にみえました。その後板当国有林201林班や初年度植樹地、T尾根などで8回写りました、殆どが7月でした。

昨年は7月に201林班で4回、情報として陣馬山付近、明王峠付近、南高尾草戸尾根(拓殖大フェンス)付近などが、影信頂上小屋主人やトレイルランの方からありました。



また交尾期でもあり奥多摩やあきる野付近から高尾の森付近に現れると思われます。

この時期(6~7月)はクマに要注意です!!

(東京都環境局資料より)



撮影された年月日・時刻場所

2016年	7/16	11:24	巨木の森
2018年	6/30	5:36	201林班
2019年	7/18	8:53	T尾根
2019年	7/28	14:53	初年度植樹地
2020年	7/9	0:14	201林班
2020年	7/11	5:36	201林班
2020年	7/11	17:08	201林班
2020年	7/13	19:57	201林班

クマにとってこの時期はサクラ類の実やホイチゴ、ハチやアリなどの昆虫を食べているが、食べ物が少ない時期で、



マキノスマイレ

エイザンスミレ



クマに出会わないために

- ①クマ鈴をつけ鳴らす
- ②ラジオなど音を出す
- ③複数人で入山し大きな声で会話をする
- ④手などたたく



クマに出会ってしまったら

- ①クマが遠くにいる場合
落ち着いてその場を離れましょう、走ったり大声を出してクマを驚かせないようにしましょう。
- ②クマが近くにいる場合
クマに背中を見せず、落ち着いてゆっくり後退りしてその場所を離れましょう。クマが向かってきたらクマ撃退用のスプレーが有効です。会でも何本か用意があります。
- ③クマに襲われた場合
うつぶせになって丸まり、組んだ両手で首の後ろ側を、両ヒジで顔をガードしてください。クマは人を食べるために襲ってくるのではなく、人を怖がっており、自分が逃げるために攻撃するので、抵抗せずに数分耐えれば逃げて行くと言われております。

*クマの成獣の体重は、オス70Kg メス50Kg程度です。

◆幹事会報告

3月幹事会 オンライン会議

- 議 案 1. 3月以降の会の予定
(定例作業・総会など)について
- 議 案 2. 林内作業車の購入について
- 協議事項 1. 20周年記念行事の企画について
- 協議事項 2. 今後の行事計画について
- 599 ミュージアム展示会
 - 第二回八王子市環境フェスティバル
 - チェーンソー補講

4月幹事会 立川女性総合センター

- 議 案 1. 4月以降の計画と予定
- 議 案 2. 2020年度決算について
- 議 案 3. 権限規定改定案
- 協議事項 1. 総会用議案書について
- 協議事項 2. 20周年記念品について
- 報告事項 1. 法人会員へのお知らせ
(会費請求と会務報告)

◆高尾の森も 桑都日本遺産に!

仁藤事務局長(左側)、
(右側)学芸員の方々



4月29日に、八王子駅南口サザンスカイトワー八王子3階にオープンすることになった「桑都日本遺産センター八王子博物館」で、会の高尾の動物観察映像を19インチのモニターで継続的に流せることになりました。合わせて、会報「高尾の森」を設置し、来館者に自由に配布いただけることになりました。

八王子市は、都内で唯一の日本遺産「桑都」として、「冷気満山 高尾山～人々の祈りを紡ぐ桑都物語～」を紹介しています。その一部として、我々の日本山岳会高尾の森づくりの活動を展示します。

展示の話は、昨年10月の599ミュージアムでの弊会の展示がきっかけです。その後高尾の動物観察映像の放映の要請と内容の確認の会議を郷土資料館と弊会(動物調査班:山崎、広報:小木曾、事務局:仁藤)で実施、合意を得た経緯があります。コンテンツは、季節ごとに持ち込み交換します。

写真は、4月29日に閉館中の貸し切り状態の博物館を村田、仁藤が訪問しました。会員の皆さん、緊急事態宣言解除後は是非立ち寄り願います。

*開館時間 10:00～19:00

(現状、第三次コロナ感染対応の緊急事態宣言で開館延期中。)

事務局長 仁藤正夫

◆年会費未納の方へ

まだ振り込まれていない方は早めに振込ください。よろしく願います。

◆20周年記念誌原稿募集中

記念誌は過去の出来事を記録する①記録編と②個人の思い出コーナーとで構成しています。双方とも5月末締め切りで原稿をお待ちしています。

まだ提出されていない方は是非投稿お願いいたします。
①記録編は白井さんまで、②個人の思い出コーナーは松川まで。よろしく願います。

松川 メールアドレス変更

旧 sxyqw679@yahoo.co.jp

↓9→8へ変更

新 sxyqw678@yahoo.co.jp

◆訃報連絡

発足当時から会の発展に汗を流してこられました「黒木邦夫さん」が4月18日22時半にお亡くなりになりました。

謹んでお悔やみ申し上げますとともにご冥福をお祈り申し上げます。

松川征夫

◆玉林寺の鐘楼

松川征夫

五日市駅から徒歩15分くらいの所に「玉林寺」がある。開設されて70年くらいの寺である。小春日和の2月、ブラブラと秋川溪谷を散策した際、玉林寺に立ち寄った。

時間は丁度お昼頃であった。立派な鐘楼がある。(写真)ポーと見とれていたら、突然「ガーン!」と鐘突きが始まった。人はいないのに。思わず驚きのけ反ってしまった。地域へお昼の合図である。

どのような仕組みか?好奇心が渦巻くがよくわからない。皆さん関心があれば一緒に見学して教えてほしいものだ。鐘突きは5回ほど続く……。



事務局からのお知らせ

活動記録

2/9	上柚木公園作業 (7名)
2/13	定例作業 (新型コロナのため中止)
2/27	チェーンソー作業実践講習 (新型コロナのため中止)
2/28	都有林プロジェクト (新型コロナのため中止)
3/9	上柚木公園作業 (7名)
3/13	定例作業 (新型コロナのため延期)
3/27	定例作業 (個人66名、法人2名)
3/27	599ミュージアム展示会
~ 4/4	(新型コロナのため8月に延期)
3/28	都有林プロジェクト (新型コロナのため中止)
4/10	定例作業 (個人58名、法人1名)
4/11	植樹祭 (11月に延期予定)
4/20	慈恵学園出前教室
4/24	チェーンソー作業補講 (10名)
4/25	都有林プロジェクト (新型コロナのため中止)

活動予定

5/8	定例作業 (新型コロナのため中止)
5/20	滋慶学園森林体験教室 (1)
5/23	都有林プロジェクト
5/28~30	三宅島プロジェクト (新型コロナのため中止)
6/5	八王子市環境フェスティバル (新型コロナのため中止)
6/5	滋慶学園森林体験教室 (2)
6/12	定例作業
6/19	総会
6/27	都有林プロジェクト
7/3	刈払機講習会
7/10	定例作業
7/24	刈払機実践講習会
7/25	都有林プロジェクト

寄付金*

年度末に京王電鉄さま及び京王百貨店さまより多額のご寄付をいただきました。厚くお礼申し上げます。

会員動向

入会：ようこそ

伊藤由紀子さま (再入会)

退会：ありがとうございました

相馬孝雄さま、笹原 洋さま

ホームページ ● **高尾の森づくりの会** | 検索

問い合わせ先

事務局 ● nitohmasaosirotori33@gmail.com



早くも咲きはじめました。
(3月9日)

編集後記



「東京都環境局自然環境部計画課森林再生担当者さまより「シカ管理計画の取り組みについて」ご寄稿いただきました。

奥多摩方面から始まり、その後東や南(北高尾山稜)方面に分布を拡げてきているとのこと。食害により大規模な土砂崩れが発生したこと、高尾山周辺は植生が豊かでありシカの定着に良好な条件が整っていることなど新鮮な情報が満載でした。当会も動物カメラを設置し活動を始めたのが2010年8月で継続したデータは大変貴重です。たまたま4月には高槻先生も現地調査に来られ情報交換をさせていただきました。今後も、国、東京都、八王子市、専門の先生等と情報共有しながら取り組んでいけたらと思います。(松川)

